

【特別記事】

せりか基金ってなに？

『宇宙兄弟』から生まれた ALS 研究支援の取り組み



ALS 治療開発の研究を支援する「せりか基金」。漫画『宇宙兄弟』から生まれたこの活動は、多くの支援に支えられ、3 年目を迎えた。この基金が生まれた背景や現状、これからの展望を、代表の黒川久里子さんにうかがった。

宇宙兄弟

小山宙哉による『モーニング』誌（講談社）連載中のコミック。2019 年 11 月現在 36 巻が刊行され、累計 2000 万部を超える大ヒット作となっている。主人公・南波六太の同僚で、ALS で父親を亡くした医師・伊東せりかが ALS 治療開発のため宇宙空間で実験を行う場面や、六太の人生に大きな影響を与えた天文学者・金子シャロンが ALS を患うといった場面が描かれる。

—『宇宙兄弟』がヒットし、この作品によって ALS という病気を知ったという方も多くいらっしゃいます。『宇宙兄弟』から「せりか基金」を立ち上げるに至ったきっかけは何だったのでしょうか。

黒川 『宇宙兄弟』では作者の小山宙哉によって ALS という病気の現状、患者さんの気持ち、研究者が難題に取り組んでいらっしゃるなどが描かれています。私たちは小山のエージェントとしてこの作品に携わっていますが、現実の世界でも実際に

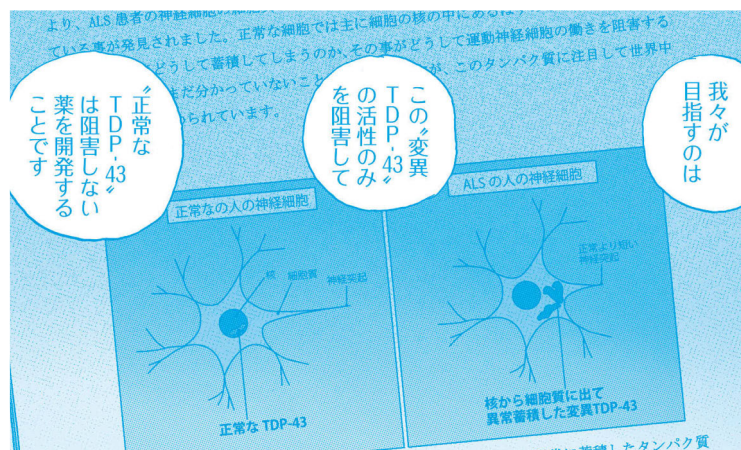
闘っていらっしゃる方々に何かできないかと考え始めたのがきっかけです。

立ち上げにあたって、治療法を研究されている先生方や患者さんにいろいろなお話をうかがいました。そんな中で、当事者でもない私たちができること、『宇宙兄弟』だからこそのことは何だろうと考え、メンバーと何度も話し合い、『宇宙兄弟』を読み直して、最終的に研究費の助成を行うこととなりました。患者さんには「いつか治ることを望んでいない患者はいない。だから研究を支援して治る日が早くなる活動をしてくれるんだったらこんなに嬉しいことはないよ」という言葉をいただきました。

作中でもせりかが諦めずに ALS の治療薬を探す研究を続けています。研究が前に進むように、ALS が治る病気になるように、という気持ちを込めて「せりか基金」と名付けました。

—「せりか基金」は 2017 年に設立され、2019 年で 3 年目を迎えました。これまでの 2 年を振り返ってどのような手応えがありましたか。

黒川 「せりか基金」では、私たちの取組み



『宇宙兄弟』27 巻より

【第1回】

藤澤貴央（東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室）
SOD1 のプロテオスタシス破綻による ALS 発症機構の解析
浅川和秀（国立遺伝学研究所）
小型熱帯魚ゼブラフィッシュを用いて ALS の原因を探る

【第2回】

笹栗弘貴（理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム）
塩基編集技術を利用した ALS マウスモデル作製
細川雅人（東京都医学総合研究所認知症・高次脳機能研究分野認知症プロジェクト）
ALS モデルマウスの作製
伊東大介（慶應義塾大学医学部神経内科）
筋萎縮性側索硬化症（ALS）病態誘導人工遺伝子による ALS 病態再現

に賛同いただいた皆様からの寄付金やチャリティグッズの売上金をもとに、ALS 治療開発に携わる研究者の方に助成を行っています。1年目は2名、2年目は3名の先生に助成を行いました。

立ち上げ前から設立、1年目の助成までは怒涛の勢いでした。患者さんや支援団体の方々、京都大学 iPS 研究所の井上治久教授など、最初の1年でたくさんの方に出会い、協力をいただきました。あれもこれもやりたいと思っていたら次々に協力してくださる方が現れ……というふうに、気づいたら1回目の授賞式が終わっていました。

幸いなことに、これまでに約2,000人の方から毎年合計で1000万円ほどの寄付が集まっています。こういう活動を継続していくためには、「1回寄付して終わり」ではなく、寄付してくださる方が継続、もしくは増えていかないとけません。3年目も寄付が少しずつ増えており、とてもありがたいことです。

— これから新たにやっていきたいことはありますか。

黒川 現在の「せりか基金賞」は日本人を対象にしていますが、審査員に海外の方に入ってもらうなど、海外にも広げていきたいと思っています。あと、いまは基礎研究への助成ですが、生活支援ロボットなど、患者さんの生活を支える技術などにも支援ができるところまで広がったらいいですね。

せりか基金が早くその役割を終え、「ALSって昔は治らない病気だったよね」って言いながら仲の良い患者さんと飲み会をするというのが設立したときからの目標

です。

— 本誌の読者には ALS 診療に携わる神経内科医や神経科学者も多くいらっしゃいます。読者に向けて一言お願いいたします。

黒川 皆さまのご活躍を切に願っていらっしゃる患者さんがたくさんいらっしゃいます。ALSをはじめとするさまざまな難しい病気の克服に向け、ご健闘を心より応援しております。せりか基金もその一助になるよう頑張ります。

黒川久里子

株式会社コルク取締役副社長。聖心女子大学卒業後キャノンマーケティングジャパン株式会社に入社、大手法人営業部に所属。その後、ニューヨーク生活、大手外資系企業に就職、法人営業を経て、2015年8月に株式会社コルクに入社。自社ECの責任者を務め、2017年よりせりか基金を立ち上げた。



『宇宙兄弟』28巻より